

新学習指導要領に向けた ご指導に関するアンケート結果まとめ ＜英語版＞

全国の先生に、2022年度から高等学校で実施される新学習指導要領に関して、新課程におけるおもな課題とその解決の方向、ICT活用、大学入試など、先生方からよくご質問いただく内容を中心におうかがいしました。
現在の状況や、2022年度以降の課題などを知る資料として、参考になれば幸いです。

2021/4/16



調査テーマ	新学習指導要領に向けたご指導に関するアンケート
調査方法	WEBまたは紙(郵送)によるご回答
調査対象	全国の国公立・私立高等学校、中等教育学校
調査時期	2021年2月16日(火)～2021年3月15日(月)
有効回収数	26件

【質問内容】**◆全体アンケート(教科共通)**

- (1)新課程カリキュラム編成
- (2)カリキュラム編成上の工夫点
- (3)新課程での指導における課題と解決の方向性
 - ・共通テストへの対応
 - ・個別試験への対応
 - ・ICT活用への対応
- (4)新課程における指導のポイント
- (5)ICT環境の変化による自宅学習のあり方

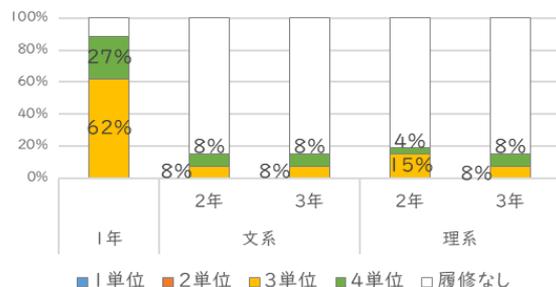
◆教科独自アンケート

- (1)学年別重点指導ポイント
- (2)4技能のバランス良い指導について
- (3)小中学校における新課程の影響について

Q. 2022年度より実施される新学習指導要領におけたご指導についてお聞かせください。

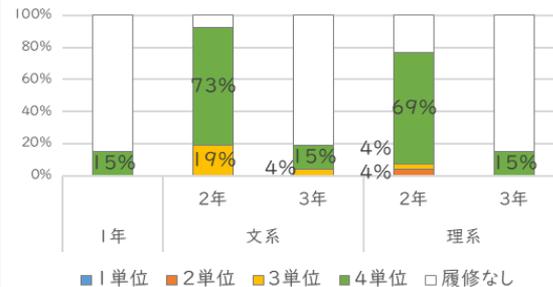
新課程のカリキュラムについて、どの学年で、どの科目を、何単位履修させようと考えているかを単位数でご記入ください。

英語コミュニケーション I



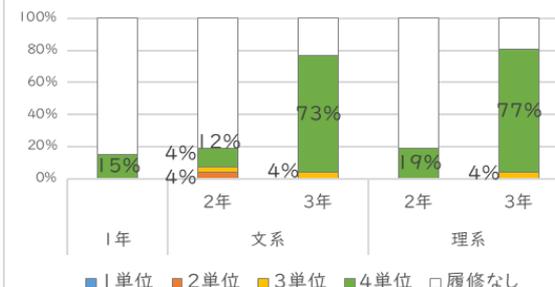
1年次3単位履修が最も多い

英語コミュニケーション II



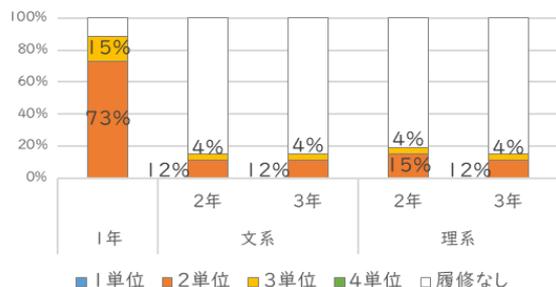
2年次4単位履修が最も多い

英語コミュニケーション III



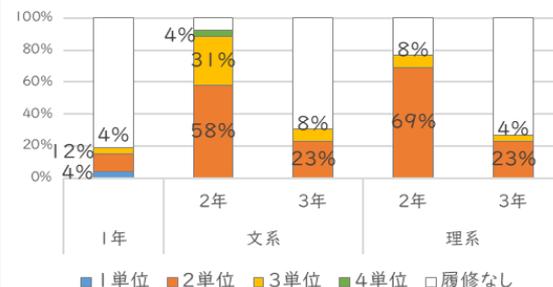
3年次4単位履修が最も多い

論理・表現 I



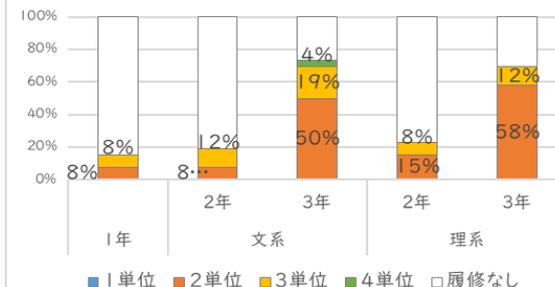
1年次2単位履修が最も多い

論理・表現 II



2年次2単位履修が最も多い

論理・表現 III



3年次2単位履修が最も多い

Q. 2022年度より実施される新学習指導要領におけたご指導についてお聞かせください。

新課程のカリキュラムについて、どの学年で、どの科目を、何単位履修させようと考えているかを単位数でご記入ください。

カリキュラムの編成でこだわられたポイント、工夫点

上記は現状で確定ではない。学年全体の単位数を他校に合わせて削減するために、現在、各教科で折衝中。もしかしたら高2の英語表現Ⅱが減る可能性もある。

現状の単位数から大きく変えることなく、しかし授業内容は改善していくという方向性で考えている点。

お恥ずかしい話ですが、まだ本校では議論が始まってもない状況です。むしろこのアンケートを拝見し、他校ではすでにこのアンケートに答えられるだけの議論が進んでいることに、危機感を感じています。他校の動きがわかるような情報を共有していただけると幸いです。ただ同時に、現在のカリキュラムを大きく変える必要があるとは思っていません。英語の授業内でのアプローチに変化が必要であることは確かですが、本校では上記以外に、高1では全コース週2回のネイティブによるオーラルコミュニケーションの授業、高2からは週2単位の英語演習（検定試験や入試問題対策授業）があります。また英語難関クラスにおいては、さらに英語授業のコマ数を多くとっています。

Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること(今後取り組みたいこと)をお教えてください。

ア. 共通テストへの対応

<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で大量の英文情報を処理する能力(スピード)の向上。 ・演習時間の確保。 ・リスニングでの得点を伸ばすためにどのような指導ができるか。 ・リスニングが苦手な生徒を減らしたい。しかしながら、リスニングに時間を取られ、ライティングが疎かになる状況が発生しないように、リスニングの指導時間を再検討したい。 ・リスニングのトレーニングにどのくらい時間をかけるか。2次試験とのバランス。 ・多読と速読の指導時期とバランス。 ・ReadingのOpinionとFactの区別やListeningの1回と2回の開きとり、図・表・情報を得てからの解答などの新傾向について。
<p>対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査で初見の文章を出題したり、共通テストのような思考力を問う出題をしている。 ・本年度の共通テスト対策の様子を、低学年に情報提供している。 ・予習なし授業の実施。 ・家庭でのリスニングのトレーニング方法を明示したい。 ・単語の早期完成。 ・現在は3年生の授業時間をさいて演習を行っているが今度は1年から多様な題材の英文をできるだけ多く読ませる活動を入れていきたい。 ・具体的な取り組みは高3になってから行う。1、2年では基礎的な英語力をしっかり身につけさせるために従来同様の指導を行う。 ・高2の1月末からラーンズの教材を用いて共通テスト対策をはじめている。 ・3年次には短めのパッセージの速読トレーニングを行っている。

Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること(今後取り組みたいこと)をお教えてください。

イ. 個別試験への対応

<p>課題</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・さっと情報をとる共通テストと精読と日本語表現を必要とする二次試験のバランス。 ・記述力、高いレベルでの表現力。 ・リスニング指導に時間を要し、ライティングが伸びていないので、次年度は工夫したい。 ・個別試験対策の開始時期の判断。 ・センター試験のようなアカデミックさが共通テストには無いので、個別試験との差が大きい。お互いを活かすことが少し難しい。 ・個別入試の多様性、各大学の変更点を正確に把握すること。 ・今年の前期試験を見て、これまでと変化が見られるのかによる部分がある。 (各大学が、新指導要領移行及び大学入試改革に対応しようとしているのかどうか) ・語彙力はもちろんですが、現代的な課題の背景知識が必要だと思います。
<p>対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を行っている。 ・英文解釈を集中的にする時期を設ける。 ・ライティングをコンスタントに続ける。 ・大学入試過去問を使った学習機会を設けている。 ・日本語でもいいので、関連資料を読む時間を設けている。 ・個別入試問題研究と実力養成のための演習。 ・具体的な取り組みは高3になってから行う。1、2年では基礎的な英語力をしっかり身につけさせるために従来同様の指導を行う。

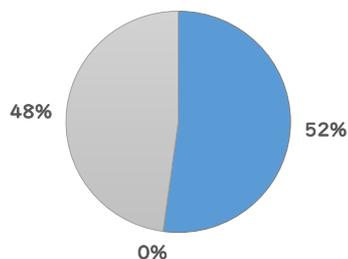
Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること(今後取り組みたいこと)をお教えてください。

ウ. ICT活用への対応

<p>課題</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒用タブレット端末とWi-Fi環境の整備。 ・セキュリティと利便性のバランス。 ・教員の活用能力を上げること。 ・教室での環境が整っていない。 (授業の度にプロジェクターやPCを運びセッティングしなければならない為)。 ・1人1端末が確保できるのか、そして校内ルール(授業内外)の制定など。 ・教員の個々のスキルが絶対的に授業に影響を及ぼしてくる。
<p>対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月からは機材が届くらしいですが、機材が届いてから研究します。 ・教員研修。 ・セキュリティ要求の高いネットワークから切り離れたデバイスの整備。 ・映像を示して概念を理解させるようにする。音読活動に使用。 ・「効果的な方法」のみを模索すると活用頻度が下がるので、「日常的な利用」を頭に入れて、まずはいろいろと使っていただく。 ・授業での活用のみならず、生徒指導の観点からもICTとの付き合い方を改めて考え、指導していきたい。 ・具体的な取り組みは高3になってから行う。1、2年では基礎的な英語力をしっかり身につけさせるために従来同様の指導を行う。

Q. ICT環境の変化により、自宅学習のあり方は、従来と変える必要があるでしょうか。

英語



■ 変える必要がある ■ 変える必要がない ■ まだわからない

- ・「まだ分からない(約半数)」を除くと、全員が「変える必要がある」と回答(全員が変える必要があると回答したのは英語のみ)。
- ・変える内容は「反転学習」や「AI等を使用した4技能学習」など多岐にわたった。

【変える必要がある】

- ・授業の下準備をどれだけするかによって、授業の活かされ方が変わってくる。生徒が自宅でも使いたいと思う学習プラットフォームを準備することが大切だと思います。
- ・いわゆる反転学習がスタンダードになっていくと思います。特に英語は、いかに活用し、演習していくかが授業の中心になると思います。説明に関しては、家庭で動画視聴を予習として取り組ませたいところです。
- ・AI等のアプリを使用した4技能の能力を把握をさせたい。
- ・ペーパーレスに近づけて行く必要がある。またzoomの活用も続ける。
- ・対面授業では発表やディスカッションなど、教室でやった方が効果的なものを作り、基礎的な内容は自宅でやらせたい。
- ・タブレット等を持つ以上、活用する必要がある。授業と家庭学習で活用の必要があるため。
- ・生徒とのデータ共有など、できることが増えていくため、新しい学習のあり方を考えていく必要がある。
- ・学校でできること、すべきことと、自宅でできること、すべきことの整理をしっかりとしたい。
- ・紙と鉛筆、スマホ、自分に合った道具を使って自学自習できる環境を整えてやりたい。

Q.新課程のご指導について、3年間のご指導の中で、各学年において特に重点を置いて指導されることをお教えてください。

1年次のキーワード

語彙力・文法力

表現活動

4技能中心

多読

1年次
語彙力をつけることと多読。その活動を通じ、自ら意見を表現する活動。
高校英語学習の基盤づくり(学習法、単語・文法)。
基礎、基本の徹底。その中でも楽しく授業に臨むための学習規律の徹底。
基礎力の定着。
文の構造を意識させ、正確な言葉遣いができるように指導する。 理解した内容について自分の意見をまとめ、表現できるようにする。
4技能を中心とした授業展開。
音声面の重視(リスニング)、リーディング(連続、多様な題材を用いて)。
英文法 リスニング。
精聴力、単語、文法。
基礎基本の徹底。 accuracy より fluency を先に身につけさせる指導。 日本語を介さずに英語を捉えるトレーニング。
個々人の英語学習方法指導を徹底すること。
音読、スペリング、中学基礎英語の徹底、3文程度のつながりのある英文を書く・話すことができる。
学習習慣の形成。

Q.新課程のご指導について、3年間のご指導の中で、各学年において特に重点を置いて指導されることをお教えてください。

2年次のキーワード

表現活動

4技能のバランス

応用力

外部試験

2年次
精読と表現力の強化により様々な立場での意見を表現する活動。
4技能全般の伸長。 英検・共通テストに向けた学習。
進路活動に関連させて、発展的な学習の充実。とくに自己表現活動などアウトプットを意識した活動の充実。
応用力の向上。
文の構造を意識させ、正確な言葉遣いができるように指導する。 理解した内容について自分の意見をまとめ、表現できるようにする。
4技能を中心とした授業展開。
音声面の重視(リスニング)、ライティング。
英文法 リスニング。
多聴、ライティング、英文解釈、単語。
語彙力の強化。
外部試験に積極的にチャレンジさせ、トレーニングを大切にさせること。
世界の中、アジアの中の日本を意識すること。自分たちが社会を作っていく責任を学ばせること。1パラグラフ程度の英文を書く・話すことができる。
リスニングを含めたバランスのとれた学習。

Q.新課程のご指導について、3年間のご指導の中で、各学年において特に重点を置いて指導されることをお教えてください。

3年次のキーワード

共通テストと個別試験のバランス

論理的表現

スピード重視

正確な理解

3年次
速読力をつけることと論理的に意見を表現する力。
2次力をつけつつ、共通テストに必要なスピードと精神力をつける指導。
受験スタイルに合わせた個別指導と一斉授業ですべきことの棲み分け。
実践力の養成。
かなり難度の高い内容に取り組み、正確に理解できるようにする。
2技能(Reading Listening)を中心とした授業展開。
リーディング、ライティング。
英文法 リスニング 読解、要約、エッセイライティング。
ロジック、家庭学習方法の理解、演習、単語。
accuracy の向上。
リスニング力、英作文力を従来の本校生よりも強化すること。
1分程度止まらずにあるトピックについての自分の考えや経験をフリートークできるようになる。まとまりのある300語程度のエッセイが書けるようになる。
共通テストと個別試験のバランスのとれた学習。

Q.新課程でも4技能をバランスよく指導することが重視されていますが、それを実現するために、特に重視することをお教えてください

- ・指導および評価の中に、4技能すべての活動を組み込むことを意識した回答がみられた。
- ・特にスピーキングの取り入れ方については、意識して検討する回答がみられた。
- ・指導計画の中で、4技能の指導配分を明確にする回答がみられた。

毎時の指導の中に必ず4技能すべての活動を組み込むこと。常に行うことで当たり前の活動にしてしまわなければ、授業中のspeakingは徐々に困難になっていくし、listeningの耳も養われなくなる。

評価にきちんと「実技テスト」を取り入れる。
(評価に入れないと個人任せになってしまい、指導が長続きしない傾向がある)

これまで指導が手薄であったLとWの指導をどのように改善していくかを、教科内で共通理解すること。

↓授業内の配分や週・月単位での配分(4技能+プレゼンテーション能力)。

年間を通して4技能をどのように評価するかが大事。

指導計画を立てどの活動を中心にするかを明確にする。
活動を通して思考力が深められるような内容を工夫する。

授業の中での4技能実践。

基本はリーディング。そしてリスニング。
スピーキングに時間を取り過ぎないようにする。あくまでスピーキングはモチベーション喚起とスパイス。

スピーキングを取り入れた授業展開の工夫。

他の技能をメインに学習している際も、リスニングを絡めて定着を目指すこと。

大前提として、教員の4技能スキルを上げることが不可欠だと思います。日本語でできないことを英語でできるはずがないので、まずは第一言語において教員自らが4技能をどれだけ意識して、自己研鑽に励むのかを、最も重視しています。

普段から統合的な活動を行う。

Q.新課程では、小中学校における英語の履修内容にも変化がみられます。
 高校でのご指導への影響、あるいは、現時点で感じている入学時の生徒の課題についてお聞かせください。

- ・特に「正確性」の部分で課題視する回答が多くみられた。
- ・高校入学時の学力格差を懸念する声も多く、入学時の生徒把握と導入期指導の重要性を感じた。

教科書による指導が行われるが、学校間の指導差が与える影響は大きいと思われます。また、高校現場として、小中で学ぶべき内容の詳細が把握できている必要がある。

あまり分からない。しいて言えば、スピーチをするときに、なぜか原稿を読もうとする生徒が多い。(見ないように指導をしても)間違えることが不安なのか。

高校入学時に能力やモチベーションに差が出てしまうのは仕方ない。それを踏まえて高校入学時の指導にはより一層の工夫が必要。生徒の学力を正確に見極めることも必要。

小・中学校における4技能のバランスと高校における4技能のバランスの指導、学習内容量の指導。

まとまりのある文章をListening、Reading共に正確に理解し、自ら表現できるようにするための文法の力をしっかりつけさせる。何となくわかって、表層的な意見表明に終始していると、内容の深い文章は理解させられないことを痛感している。

活かすことに関しては取り組むようになった。一方で、知識の面が弱い。

高校入学時に既に学力格差が大きいと感じる。

高校入学時の学力格差。

インプットをしっかりやっておいてほしい。

中学校によっては、訳読や文法知識ベースの指導など、新課程を意識しない指導が残っており、英語教育の質に格差がある。また、高校入学段階でそれを払拭することに時間がかかる。県の教育委員会が作成する入試問題にさえその傾向が見られ、履修内容が変わっても中学校までの指導に変化が現れることはあまり期待できない。小学校教育においても、教員側に新課程が目指す英語教育への理解が十分にあるかどうかは疑問である。

20年前はもちろん、10年前よりも大学入試が難しくなっています。
 しかしながら、難しくなったことは、英語が好きな生徒にはチャンスなので、
 英語が好きな生徒を増やしたい。

小学校では「話すこと」にあまりにも特化しすぎているのではないかと思う。文字の中に発音の根拠が見出せない生徒が近年特に多く、本校では、ローマ字の習得から問題がある生徒が複数います。中1の時点で英語でもすでに大きな学力差がみられるのが問題です。

fluencyは高いが、accuracyの面で大きな課題を感じる。



本社：〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17

本資料の内容を、無断転載することを禁止します。
各種コンテンツに転載する場合は事前に弊社までご連絡ください。
本資料に関するお問い合わせや、
教材のご注文・見本請求などは、下記窓口までお願いいたします。

ラーンズ お客様センター 0120-548155 通話料無料

受付時間/月～金 9:00～17:00 (祝日、年末・年始を除く)